

○若崎 淳子：臨床看護学講座 教授
鈴木志津枝：神戸市看護大学
療養生活看護学領域教授

1. 科目の教育方針

- 1) 看護学における家族を理解し実践するための概念や諸理論、研究動向を学び、看護の対象としての家族について理解を深め探求する。
- 2) さまざまな状況にある家族に対して包括的な支援が提供できるよう、家族の持てる力の促進を目指したエビデンスに基づく看護援助を探求する。

2. 教育目標

- 1) 家族看護学の発展過程と求められる看護を理解する。
- 2) 家族に対して専門的看護を実践するうえで基盤となる概念や理論を理解する。
- 3) 地域や臨床における家族看護の実践に向けて、家族アセスメント及び支援について説明する
※看護実践の場を論理的に捉えることができる思考能力の育成を目指す。
- 4) 看護実践に活用できる知識を獲得し、家族の持てる力の促進を目指したエビデンスに基づく看護支援を検討・提案する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 授業では講義の他、受講生各自の課題レポート内容に基づくプレゼンテーションやディスカッションを行う。
- 2) 授業への臨み方
 - ・受講生は文献(研究論文を含む)を基に課題レポートを作成し授業に臨むこと。
 - ・家族を取り巻く社会や抱える課題・問題に関心をもち、家族の持てる力を促進し、対象の生活の質を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう目的意識をもって授業に臨むこと。
 - ・家族看護に関する最新情報・知見について、文献等から主体的に学習すること。

3) 評価

[レポート] 50%

課題レポート

①家族看護に関する理論の説明とその活用及び展開過程を重視する。

②根拠に基づく系統的記述及び論理的考察を重視する。

[プレゼンテーション] 20%

[受講態度] 30% (毎回の授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)

4. テキスト等

1) テキスト

指定なし。

2) 参考図書

鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学—理論と実践第3版、日本看護協会出版会、2006.

法橋尚宏：新しい家族看護学—理論・実践・研究、メヂカルフレンド社、2010.

山崎あけみ、原礼子：家族看護学第2版、南江堂、2015.

その他、適宜紹介する。

5. 教育内容

回	授業日	内 容	担当
1	月 日	ガイダンス／関心領域の発表 家族看護学の発展過程と求められる看護	若崎
2	集中講義	家族エンパワーメントモデル	鈴木
3		家族エンパワーメントモデルを活用した事例展開 終末期患者の家族への援助（高齢者の事例を用いて）	鈴木
4		Enrichment の概念の活用 終末期患者・家族間の相互性を支える援助	鈴木
5		悲嘆理論と死別後の遺族へのグリーフケア	鈴木
6		月 日	家族看護の基盤となる概念・理論(1)
7	月 日	家族看護の基盤となる概念・理論(2)	若崎
8	月 日	家族看護の基盤となる概念・理論(3)	若崎
9	2コマ続きで 3日間(計6回)	家族のアセスメントと看護援助方法の検討	若崎
10		事例1 病をもつ高齢者の家族への支援	若崎
11		事例2 認知症高齢者の家族への支援	若崎
12		事例3 在宅療養に向けた患者家族への支援	若崎
13		事例4 成人期にある患者の家族への支援	若崎
14		事例5 急性期にある患者の家族への支援	若崎
15		事例6 治療過程に在るがん患者への支援	若崎
	事例7 家族の意思決定支援 等	若崎	
15	月 日	家族看護の展望と課題～看護実践に向けて：討議	若崎

教室：N404

嘱託講師は集中講義とする。